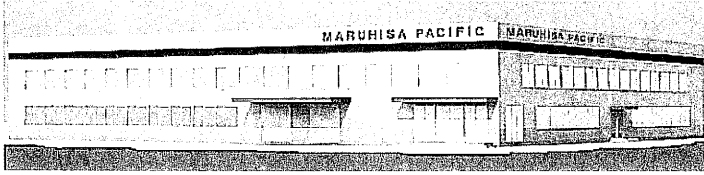


丸久、バングラに進出

県内初、350人規模

来春操業 海外3番目の拠点

アパレルメーカーの丸久(鳴門市撫養町斎田、平石雅浩社長)は二十五日、バングラデシュに新工場を建設し、衣料品を生産すると発表した。同社の海外拠点はタイ、中国に続いて三番目で、シエトロ徳島によると、県内企業によるバングラデシュ進出は初めて。



丸久が建設するバングラデシュ工場の完成予想図(同社提供)



工場建設に伴い、四月に丸久が99%、平石社長が1%出資の現地法人を設立。資本金は七千万バングラデシュタカ(約一億円)で平石社長が会長に就き、社長には中国子会社「丸久(青島)時装有限公司」の山本周治前社長が就任した。敷地は二万六千三百五十平方メートルで、工場は延べ五千四百平方メートル(第一期計画)。首都ダッカ郊外のアタムジー輸出加工区内に建設中。従業員は三百五十人規模で、欧州風のカジュアル商品や低価格商品などを生産する。丸久を通じて主に日本国内の量販店や専門店に販売し、将来的には欧米にも販路を広げる。

来春三月ごろに完成し、四月から操業する予定。年間生産量は約三百万枚で売上高は七百二十万円(いずれも第一期)を目指す。一―五年後を

めどに、第二、第三期の増設工事を視野に入れており、十億円を超える総投資額を見込む。丸久によると、近年、アパレル業界では、人件

費が高騰する中国を敬遠し、アジア諸国でも格段に人件費が安く、世界的な繊維製品の生産地に育っているバングラデシュに目が向いている。このほか▽欧州製の設備を導入する工場が多く、中国製にはない風合いの商品生産が可能▽欧米の大手アパレルが進出し最新の流行情報が得られる▽日本、カナダ、オーストリ

アには関税ゼロで輸出できる優遇税制を進めている▽国民の多くが親日的なども進出を促す要因となっている。日系100%出資の衣料品製造でバングラデシュ進出は国内三社目。平石社長は「対日輸出のモデル工場となるよう現地政府から大きな期待を寄せられている。攻めの姿勢で臨みたいと話している。